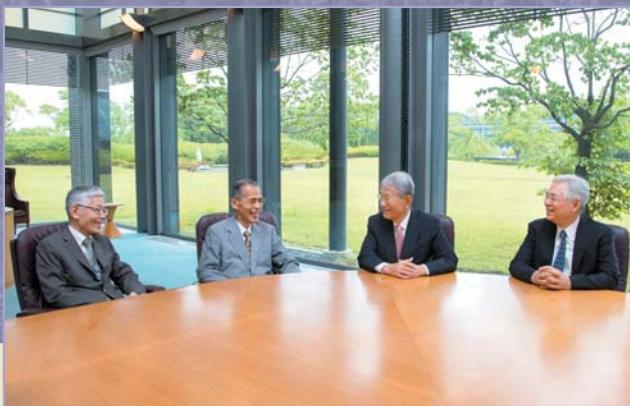


国や組織、分野を超えた、 コラボレーションを展開。

国際高等研究所は設立以来、「人類と未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する」ことを理念に、持続可能社会の実現に向け、様々な研究活動を実施しています。われわれの研究による成果を広く世界に発信し、社会に問いかけていきます。



2015年4月の国際高等研究所戦略会議（ISC）第1期提言で「高等研として取り組むべきこと」とされた「将来の地球社会を考えた時の科学技術の在り方」「循環型、定常経済社会の構築の必要性とその方策」「多様な価値観を持つ社会や国家の平和的共存のための方策」の3つの課題、および、けいはんな学研都市の30年後の未来を見据え、けいはんなの特長を生かしながら都市全体を成熟させていくための青写真をデザインすることを目的とした「けいはんな未来」懇談会の、合計4テーマについて、理事会、評議員会の審議を経て、基幹プログラムに選定しました。

研究プロジェクトは、基幹プログラムと両輪となって、相補的充実を図る中で独自性を発揮する事業と位置付けるものであり、学問分野を越境し、社会的課題や人類と地球の未来への視点を有するプロジェクトも手掛けています。

高等研の研究活動は情報交換と相互交流を繰り返すことで、テーマ間の連携を深めるとともに、所長、副所長の全体を俯瞰した適切な助言により、円滑な進捗と研究成果のブラッシュアップがなされるようにしています。特に次世代を担う若い人達との協働や議論の場を数多く提供するとともに、新たな手法や方策を駆使した研究を実践しています。

2015年度は以下の4つの基幹プログラムと9つの研究プロジェクトを推進しました。

基幹プログラム

● 将来の地球社会を考えた時の科学技術の在り方

「21世紀地球社会における科学技術のあり方」研究会
(研究代表者:有本 建男 国際高等研究所副所長)

副所長が代表を務めるプログラムについては、研究メンバーの確定、具体的目的や研究会名の検討、論点の整理、分析などを行い、2016年度に続く基盤を整えました。特に、「けいはんな未来」懇談会においては、中間報告書を取りまとめました。

● 循環型、定常経済社会の構築の必要性とその方策

「人類生存の持続可能性～2100年価値軸の創造～」研究会
(研究代表者:佐和 隆光 国際高等研究所研究参与) *2016年4月1日より

基幹プログラム「循環型、定常経済社会の構築の必要性とその方策」については、研究代表者の選出と研究メンバーの確定を行い、2016年度の本格的始動につなぎました。

● 多様な価値観を持つ社会や国家の平和的共存のための方策

「多様性世界の平和的共生の方策」研究会
(研究代表者:位田 隆一 国際高等研究所副所長)

● 「けいはんな未来」懇談会

(研究代表者:松本 紘 国際高等研究所副所長)

研究プロジェクト

● 領域横断型の生命倫理プラットフォームの形成に向けて

(研究代表者:児玉 聰 京都大学大学院文学研究科准教授)

● 総合コミュニケーション学

(研究代表者:時田 恵一郎 名古屋大学大学院情報科学研究科教授)

● 人工知能に関する問題発掘型対話基盤と

新たな価値観の創出

(研究代表者:江間 有沙
東京大学教養学部附属教養教育高度化機構特任講師)

● ネットワークの科学

(研究代表者:郡 宏 お茶の水女子大学基幹研究院准教授
増田 直紀 ブリストル大学上級講師)

● 精神発達障害から考察する decision making の

分子の基盤

(研究代表者:辻 省次 東京大学大学院医学系研究科教授)

● 分子基盤に基づく生体機能への揺らぎと

ダイナミックネットワークの解明

(研究代表者:寺嶋 正秀 京都大学大学院理学研究科教授)

● 生命活動を生体高分子への修飾から俯瞰する

(研究代表者:岩井 一宏 京都大学大学院医学研究科教授)

● クロマチン・デコーディング

(研究代表者:石川 冬木 京都大学大学院生命科学研究科教授)

● 設計哲学－俯瞰的価値理解に基づく、人工財の創出と 活用による持続可能社会を目指して－

(研究代表者:梅田 靖 東京大学大学院工学系研究科教授)